

国 際 交 流



高 橋 孝 行（国際交流室）

平成元年12月より理学部に学ぶ外国人学生の指導を担当することになりました。これまでの担当者の守隆夫先生や前国際交流委員長で、この春に退官された田沢仁先生、さらに現学部事務職員の皆様の助力をいただきながら、外国人学生の指導にあたっています。現在、理学部には外国人の学部学生はおりませんが、理学系研究科には117名の研究生および大学院生が在籍しています。昭和60

年には外国人学生数が約50名でしたから、この5年間で2倍以上になったこととなります。今後もこの増加傾向は続くものと予想され、それに伴って生活指導を必要とする学生や研究生が増えると思われます。このような状況を考慮して、この4月には理学部1号館に理学部国際交流室が開設されました。この交流室をどのように活用するかという点については検討中ですが、とりあえず毎週火曜日と木曜日は、国際交流室において理学系研究科への入学に関する外国からの問合せや入学願書請求に応じたり、学生との面談等を行なっています。毎月、約20通の手紙、問合せが外国から届いており、そのほとんどが理学系研究科に入学を希望する者からのもので、本研究科への関心の高さを物語っています。入学希望者に対しては、入学願書の他、希望専攻について研究内容等を記載した

英文の案内書を添え、先方の必要とする情報を提供しています。英文の研究内容案内書を、現在の状況を記載したものに更新すべきと判断し、各専攻の研究室に内容のアップデートをお願いしましたところ、心よく応じていただきましたことを感謝します。現在、大学院掛と協力して、とりまとめの作業を行なっておりますが、本研究科において進行中の研究内容が少しでも正確に先方に伝わり、専門や指導教官の選択にあたってプラスになればと願っています。外国人学生の受け入れについては、理学系研究科内のどの専攻においても、希望者があれば、能力が充分であることを確めて受け入れるという方法をとっているようですが、専攻の構成メンバーや簡単な研究内容を記載したポスターを海外の大学に配るなどして、本研究科の宣伝を兼ねて、優秀な外国人学生を積極的にリクルートすることも考える必要があると思います。

外国人学生と身近に接する機会に恵まれたもの

の、私自身の方に心の準備やモットーのようなものを持つことなく始めたというのが実際でした。学生が直面している困難や問題について相談を受けた時、それが相手にとっては人生を変えるような場合もあり得ることを考えると、やはり真摯でなければいけないと考えるに至りました。“学生である前に留学生である”ことを念頭に、風俗・習慣の異なる異国で生活する者の立場になって接する姿勢を忘れないように心がけたいと考えています。

今日、国際社会の一員として日本の役割が益々期待されています。すでに多数の外国人学生を受け入れている理学部、理学系研究科はその意味で責務を果たしているとは言えますが、今後も、質的向上を目指して努力を続けるべきです。非力ながら、お役に立てますよう努めますので、本学部・本研究科に所属する全ての先生、職員、大学院生、学生の皆様の協力をお願い致します。